

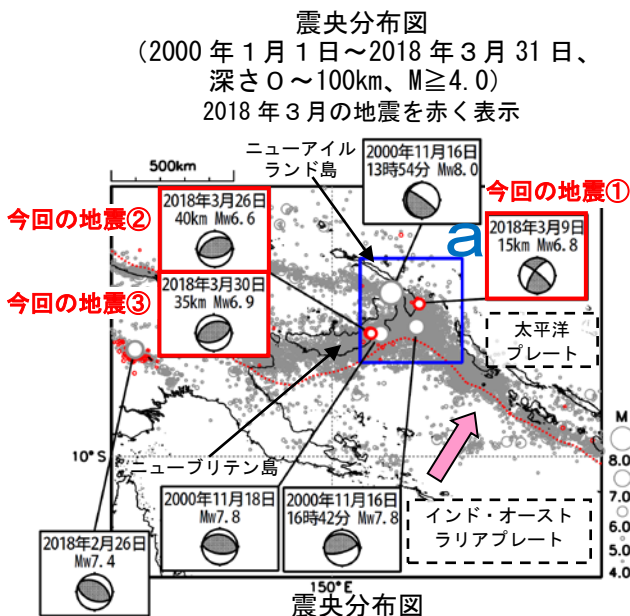
3月9日 パプアニューギニア、ニューアイルランドの地震 3月26日、30日 パプアニューギニア、ニューブリテンの地震

2018年3月9日02時39分(日本時間、以下同じ)に、パプアニューギニア、ニューアイルランドの深さ15kmでMw6.8の地震(今回の地震①)、3月26日18時51分及び3月30日06時25分に、パプアニューギニア、ニューブリテンのそれぞれ深さ40kmでMw6.6、深さ35kmでMw6.9の地震(今回の地震②③)が発生した。今回の地震①の発震機構(気象庁によるCMT解)は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。今回の地震②及び今回の地震③の発震機構(気象庁によるCMT解)は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

気象庁は、9日03時03分(今回の地震①)に、26日19時17分(今回の地震②)に、30日06時46分(今回の地震③)にそれぞれ遠地震に関する情報(日本への津波の影響なし)を発表した。なお、これらの地震の西に位置する同国のニューギニア島では、2018年2月26日のMw7.4の地震の発生以降、地震活動が活発になっており、地震による地滑りにより少なくとも死者100人以上の被害が生じている(3月17日現在)。

2000年1月以降の活動をみると、今回の地震①②③の震央周辺(領域a)では、2000年11月16日にMw8.0、Mw7.8、11月18日にMw7.8の地震が連続して発生し、11月16日のMw8.0の地震では、死者2人、住家被害多数の被害が生じている。

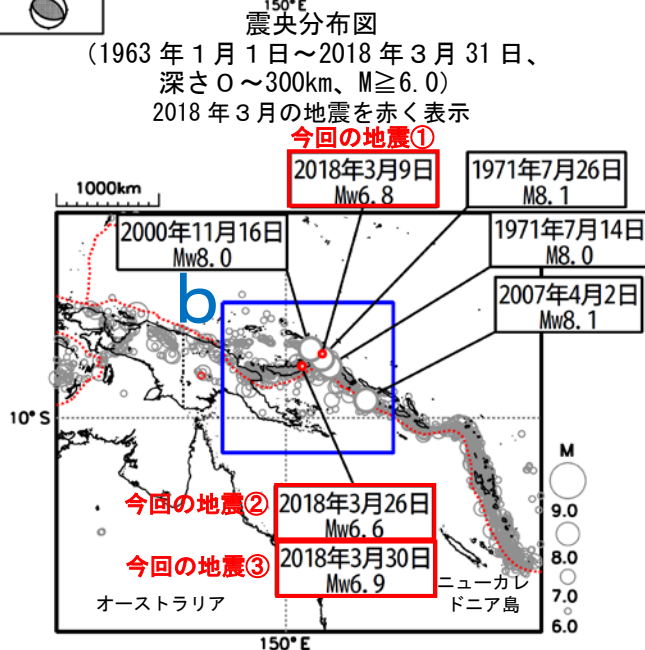
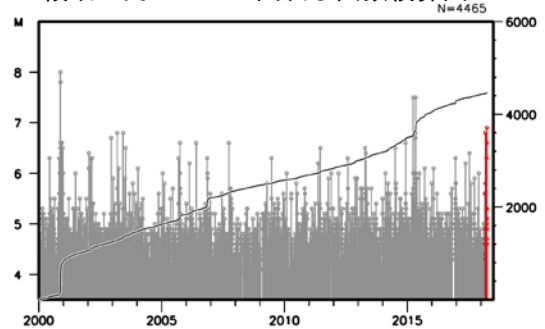
1963年1月以降の活動をみると、パプアニューギニア周辺(領域b)では、インド・オーストラリアプレートの沈み込みに伴い、M7.0以上の地震が頻繁に発生しており、非常に活発な地震活動がみられる。



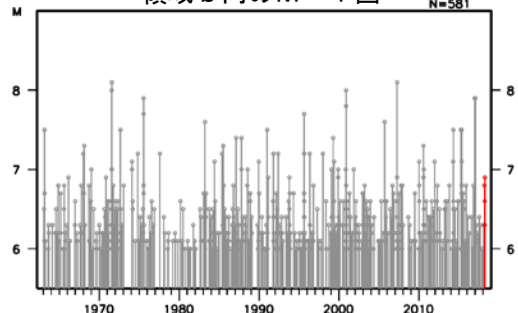
----- プレート境界の位置
← プレートの進行方向

プレートの進行方向は、太平洋プレートを固定した場合の相対的な方向である。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図



※本資料中、今回の地震①②③及び2018年2月26日の地震の発震機構とMwは気象庁による。その他の地震の発震機構とMwはGlobal CMTによる。震源要素は米国地質調査所(USGS)による。2018年2月26日の地震の被害は、OCHA(UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所)による(3月17日現在)。その他の地震の被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird(2003)*より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.